むぎの郷つうしん

August 2012

発　行／麦の郷情報管理委員会
〒640-8301 和歌山市岩橋643
TEL(073)474-2466　FAX(073)473-0430
http://www7.ocn.ne.jp/~ichibaku/

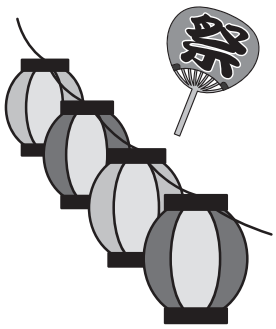
“麦の郷とは” 住民のニーズから生み出され、住民の手によって育てられる

はぐるま共同作業所・和の杜・ラ･テール・麦の郷居住福祉事業所
くろしお作業所・くろしお作業所分場・麦ピース
ソーシャルファームピネル・麦の郷印刷・けいじん舎
こじか園・こじか親子教室・第二こじか園
障害者生活支援センター(紀の川･岩出市/和歌山市)
麦の郷高齢者地域生活支援センター・麦の郷総合支援センター
麦の郷障害者地域リハビリテーション研究所

テーマ
『歌って、踊って、輝いて』

第35回　障害者・市民の夏祭り

よさこい祭り



第18回　西和佐地区・麦の郷夏祭り

私たちのめざすもの ～麦の郷４つの理念～

1). 私たちは、障害のある人のあらゆるライフステージにおいて権利保障(発達保障・労働保障・生活保障など)をめざします。
2). 私たちは、障害のある人や支援の必要な子どもから高齢者までの要求の実現をめざします。
3). 私たちは、地域住民と地域社会に依拠し、支えられそして支える地域づくりをめざします。
4). 私たちは、日本国憲法の理念を守り、発展させ、平和な社会づくりをめざします。さらに、障害者権利条約など国際的な到達点を指針とした実践、運動、研究をめざします。

広い視野と行動する勇気を

6月20日、障害者総合支援法（以下、総合支援法）が成立した。この法律の成立過程と内容を踏まえた時、看過できない多くの問題点があることをみなさんと情報の共有をしたい。

まず、法案策定過程において、所管する厚生労働省（以下、厚労省）が「障害者総合福祉法の骨格に関する総合福祉部会の提言（以下、骨格提言）」と「障害者自立支援法違憲訴訟基本合意（以下、基本合意）」をないがしろにした点である。骨格提言の軽視は、障害者及び障害団体の総意を軽視することであり、誰のための法律かという基本認識において大きな隔たりを感じる。既存の枠組みやルールにしがみつくばかりで、障害者権利条約に適合させる意思や、当事者が求める新たな仕組みを創造する勇気も力量も持ち合わせていない厚労省の姿がうかがえる。基本合意に至っては軽視を通り過ごし、無視したといってもよい。これは司法の下で原告団と交わした約束を反故にする重大な詐欺行為であると当事者の怒りは頂点を極めた。こうした振舞いの影響は単に障害者と関係者に及ぶだけではなく、国民全体の行政や司法への信頼を失墜させることにつながることを深く認識するべきであろう。

次に、国会での審議が余りに形式的であった点である。4月17日に審議入りしてから6月20日に成立するまで、審議時間は衆参合わせて約6時間という短さだった。これでは、国会での徹底審議を求める障害者及び関係者の声を十分に反映したとはお世辞にも言えず、国会が自立支援法に替わる新法制定を軽視したと受け止められても仕方がない。民主党と厚労省は自立支援法を実質的に廃止したと主張するが、それならば国会の場でそれにふさわしい審議時間を確保すべきだったであろう。ちなみに、自立支援法の成立時には衆参で150時間以上の審議がなされていた。これほどの審議時間の短さは、総合支援法が自立支援法のマイナーチェンジに過ぎなかったことの現れであろう。

さらに内容面では、理念規定に「可能な限り」という必要な施策を行わない場合の言い訳につながる文言を入れたことや、利用者負担について応益負担の枠組みを残し収入認定を本人のみとしなかったこと等、骨格提言とは相容れない部分が多く残された点である。また、付則第3条において法施行後3年を目途に検討を加え所要の措置を講ずるとされた点についても、全く具体性を欠き問題解決を先送りにしたことに過ぎないであろう。この検討を骨格提言の段階的実施という観点から行うとともに、そのための検討体制を「障害者等及びその家族その他の関係者の意見を反映させるために必要な措置を講ずる」との規定を踏まえ、早急に明らかにすることを政府及び厚労省に強く求めたい。

骨格提言と基本合意をわが国の障害保健福祉施策に反映させることと、現在検討されている障害者差別禁止法（仮称）の制定は、障害者権利条約を実質的に批准するための不可欠な要素である。障害者権利条約・基本合意・骨格提言（真3K）を宝に、常に自分たちの実践に照らして、障害のある人たちの安心・安全な地域生活を実現するために、更なる運動を推進していくことが求められている。

障害福祉の問題だけでなく、社会保障全般の切り崩しの問題、消費税の問題、原発の問題など、広い視野を持ちながら「ねがい」の実現のため、一人ひとりが大きな勇気をもって行動していこう。

（鈴木栄作）

「なでしこホーム」「ホームきずな」開所

2012年4月、和歌山市岩橋の紀伊風土記の丘に近い閑静な住宅街に新たなグループホーム・ケアホーム「なでしこホーム」と「ホームきずな」が誕生しました。

今回のホームは国・市において国庫補助を受け建設した新築のホームになります。豊富に使用された紀州杉の香りのする広い部屋に仲間も大喜びしました。

その開所式が4月5日におこなわれました。まず田中秀樹理事長、麦の郷を支える会　橋本進会長より挨拶とメッセージがあり、大橋建一和歌山市長代理として和歌山市健康局 永井尚子局長、西和佐地区連合自治会　臼井正夫会長、和歌山市精神障害者家族会つばさの会　岡田道子会長より祝辞を頂戴しました。臼井会長からは新築の立派なホーム建築・施工に尽力した皆様に敬意を表するとご挨拶いただき、岡田会長からは親亡き後も障害のある仲間が、立派に自立していくグループホームは質量的にも拡充を求めていきたいと挨拶されたことが印象的でした。

そして、ホームの土地を提供いただいた藤本雅史氏、設計していただいた宮田製材株式会社宮田勝弘代表取締役、施工していただいた株式会社丸山組　久保利夫代表取締役へ表彰と記念品贈呈式へと続きました。

最後に新規ホームの発展を祈念し西和佐地区社会福祉協議会　山田恒次会長に乾杯の音頭を執っていただき「この地域で新たに麦の郷の事業所が、無事に開所出来たことを喜ばしく感じる」とご挨拶していただきました。短時間ではありましたが、50名以上の方々にご参加いただき、地域の自治会長や和歌山市行政からも多くのご来賓のみなさまに出席いただけた開所式であったと感じています。

今回の開所式では、ホームで暮らす仲間も自己紹介をしました。大勢の来賓が集まる緊張した中で、仲間達は作業所でがんばっていること、バンド活動をしているので応援してほしいこと、一般就労を目指していることなどを話し、あらためて「よろしくお願いします」と挨拶しました。本当に嬉しそうな笑顔であったことは、開所式から幾日を過ぎても忘れることはできません。この新規ホーム建設にご尽力いただいた皆様、そしてお忙しい中、この開所式にお越しくださいました皆様、この場をかりまして御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

今後も麦の郷では、障害のある仲間達が地域で安心して暮らしていける資源を築いていけるよう努力して参りますので、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

（武田）

なでしこホーム

ホームきずな

待ちに待った第二こじか園誕生

みなさんのご支援・ご協力のもと、平成24年4月に児童発達支援センター「第二こじか園」が開園しました。

4月9日におともだち式があり、14名の子どもたちが入園してきました。

広い園舎に職員も子どもたちも戸惑いながらのスタートでしたが、試行錯誤しながら日々過ごしてくる中で、園生活にも少しずつ慣れてきて、今では、園舎内に子どもたちの元気いっぱいの声が響き渡っています。

広い園庭の遊具に、最初は恐る恐る登っていた子どもたちも、日に日にたくましく、また友だちがしている様子をみて「やってみたい」気持ちが育ち、今ではすいすいと登っていきます。そして、子どもたちの大好きなお散歩にもでかけます。コースは、杭ノ瀬公園です。公園までの道のり、車が通る道はお友だちと手をつないで歩き、田んぼや水路をみたり、草花を見つけたり、たまには住宅地の中を静かに歩いたりもしています。

公園に到着すると、滑り台やブランコなどの遊具であそび、また園まで帰ってきます。お散歩は子どもたちの大好きな活動のひとつです。

また、園舎には階段があり、大人側からすると階段は怖いのですが、子どもたちは階段をのぼったりおりたりするのが大好きです。階段をのぼると広いホールがあるので、ホールで朝のあつまり、帰りのあつまり、リズムなど楽しんでいます。一日に何度も階段をのぼったりおりたりを繰り返しているので、自然と体づくりにもつながっています。

そして、7月から新しいお友だちが3人増え、今は17名になりました。

これからも、お散歩コースを増やしたりと、子どもたちと毎日を楽しみながら元気に過ごしていきたいと思います。

（高山）

麦の郷研修会　報告
「知は力なり」 全職員研修会

6月30日午後1時30分より河南コミュニティセンターにて、新人職員研修を兼ねた全職員向けの研修会が行われました。麦の郷の様々な事業所より84名の職員が参加いたしました。講師は麦の郷理事の伊藤静美さん、全障研和歌山支部顧問の上杉文代先生でした。まず始めに伊藤さんの「なかまたちの住まいの場の確保と地域との関係づくり」の講義が始まりました。新人向けの研修という名目もあり、麦の郷の歴史や発足したきっかけなどを詳しく話して頂きました。私自身麦の郷の歴史はパンフレットなどの文面でしか見たことが無く、実際に立ち上げにかかわった伊藤さんから当時のことを詳しく話していただき、伊藤さん達や当事者がどのような気持ちで麦の郷を作ったかということを認識し、そこから成長してきた麦の郷で働かせて頂いていることをとても光栄な事だと思い、これから先自分達若い世代が更に成長させていかないといけないと感じました。また、「福祉の感覚に浸かってしまわずに一般市民の感覚を忘れない」という話を聞き、改めて気を引き締めようと思いました。

その後休憩をはさみ、上杉先生の「発達保障と障害者運動」の講義が始まりました。発達の事について知識がない私にとってはとても難しいお話でしたが、「人間としての発達は誰にでもある。発達とは自分が自分になっていく過程である」、「横への発達があるから発達は無限である」という話を聞き、健常者の私たちにとってはごく当たり前に感じていることですが、発達障害を持っている障害者の人達は、一つの発達の段がとても高くなり、次の発達の段階へ進むのにかかる時間が長くなっているんだということに気づきました。そして、当事者の発達に沿った支援の必要性を感じ、発達についてのことをもっと詳しく知らないといけないということを改めて痛感しました。その中で、利用者にその日支援したことへの見直しを常に繰り返しながら支援をしていく必要性を感じました。

今回の研修では、講座ごとに精神障害と知的障害と分けて学ばせて頂きました。どちらも新人職員、特に右も左もわからず福祉の現場に飛び込んだ私のような人にとっては難しい講義ではあったと思います。しかし、伊藤さんの話であった「一般市民の感覚」ということについては私たちはその感覚は大きく残っています。そして上杉先生の話であった「横への発達」はこれからもどんどんできてきます。この研修で学んだことを忘れずに、これからの毎日の実践に役立てたいと思います。

（湊）

演劇『ふるさとをください』公演の取り組みスタート

私たちの「麦の郷」がモデルになった映画「ふるさとをください」を覚えていますか？平成20年に「きょうされん」30周年記念映画として制作され全国900箇所40万人が鑑賞。海外でも8ヶ国37ヶ所で上映されました。オール和歌山ロケで作られたこの映画は、地域の大勢の方々の協力で完成し、私たちの大好きな風景や仲間たちもたくさん登場していました。また障害のあるなしにかかわらず、ふるさとで共に支えあい暮らしていくことの大切さを描いたストーリーから、精神障害の新たな理解にもつながりました。

映画の感動を生の舞台で！

多くの人たちの心に感動を残したこの作品が、このたび、和歌山県内3箇所で生の舞台演劇として上演されることになりました。脚本は映画と同じジェームス三木さんです。東京を中心に、全国活動を展開する劇団シアター青芸による公演は、12月。私たちの胸をキュンとさせたあの場面が生の舞台ではどんな風に描かれているのでしょうか・・・!?とても楽しみです。

舞台の内容は、映画が基になっており地域での人のつながりや家族の絆、ふるさとの大切さをわかりやすく描いたヒューマンドラマです。

12月の公演にむけて、6月25日には実行委員会が発足しました。

実行委員長：山口　裕市 さん
和歌山県スポーツ振興会理事長
前和歌山県教育長

副実行委員長：池田　香弥 さん
前和歌山県立ろう学校校長

副実行委員長：楠　富晴 さん
NPO法人紀州粉河まちづくり塾会長

副実行委員長：那須　久仁夫 さん
やおき福祉会常務理事

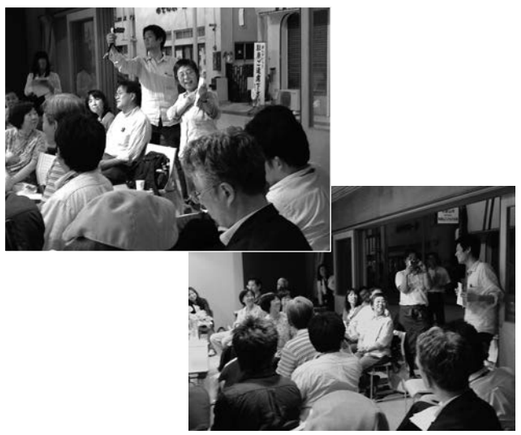
実行委員会では、たくさんの方に鑑賞していただくための取り組みとともに、ふるさと和歌山の元気を創る出会いづくりをすすめます。ふるさとへの熱い思いを持ち、活動をすすめている人たちが実行委員会で「ふるさと紡ぎ人」としてつながりながら公演の成功をめざします。皆さんも、是非参加してください！

（島）

公演日程

２０１２年
12月１日（土）粉河ふるさとホール
12月８日（土）田辺紀南文化会館
　　開場１３：００開演１３：３０
12月９日（日）和歌山市民会館
　　開場１４：３０開演１５：００

☆チケット料金は会場ごとに設定されています。
お問い合わせください。
公演実行委員会事務局
電話０７３　４２７　３３１３



※第１回実行委員会の様子

夏だ！アイスだ！

くろしお作業所

今年、夏の目玉商品としてくろしお作業所ではアイスクリームの販売をしています。なかまが作った黒豆、さつまいもを原料にした黒豆アイス、さつまいもアイスや紀の川市特産の桃『白鳳』を使った桃シャーベットなどを販売しています。

今まで、夏場の商品づくりが一番の課題で、なかまも職員もあれこれ考えた結果、夏はやはりアイスだ！と結論が出ました。しかし、大手の製造会社では個数的に無理があり、なかなか小ロットの製造をして頂けるところが無く、製造は難しいと思っていましたが、なかまや職員の思いが通じたのか？小ロットで製造して頂ける会社が見つかり製造にこぎつけました。本当に手作りのアイスクリームで味は最高です。今年も暑い夏がやって来ました。暑い夏こそくろしおアイスでクールに!!!

（田中啓二）

打った！歌った！踊った！
第35回 障害者・市民の夏まつり

ドトトウントウドンタ！ドントウドンタ！「アボロマ～ァ　アボロマ～～～ェ～～～！」。太鼓の軽快なリズム音！はつらつとした元気な声！

7月21日に行われた第35回障害者・市民の夏まつり。たくさんの屋台が並ぶ和歌山城西の丸広場。そこにアボロッサムによるジャンベの音が夏の空いっぱいに響き渡りました。

アボロッサムは地域活動支援センター櫻を利用するみなさんで結成されたジャンベ演奏チームです。ジャンベとは西アフリカの打楽器です。20年に結成されたこのチームは、最初は音楽を通したリハビリ活動としてつくられました。しかし、練習の中で「人」と「音」を合わせることを楽しむようになり、地元の春祭りでは地域住民ら約300人を前に、見事な演奏を披露しました。このことがきっかけで「自分たちだけが楽しむだけじゃなくて、来てくれているみんなへ楽しさを届けたい！」という想いが生まれ、今回の夏まつり出演につながりました。1000人以上がいる前での演奏は初めてとのことで、さすがに始まる前は緊張した表情がみうけられました。しかし「ドトウン！」と、ひとたび音をきざみはじめると、笑顔がこぼれ、イキイキとジャンベを打っていました。そんな様子は「人」と「音」に「こころ」をのせているようにみえました。それはもうリハビリではなく、アボロッサムの方々が自分たちの想いを表現する方法だと私は感じました。

この他にもクロスハーツによるフラとゴスペルをコラボレーションさせた清涼感あるパフォーマンスや、青年学級の元気ある合唱などもりだくさんで、夏まつりは大いに盛り上がりました。

終盤は会場のいる皆さんで、輪になって踊りました。踊っているひとりひとりの顔がキラキラと輝いていました。2年連続して若き実行委員長を務めたソラーナの濱田勇斗さんは、今年の目標を「和歌山城西の丸を希望の光でいっぱいにしたい」といっていました。みんなのキラキラした笑顔でいっぱいになった西の丸は、本当に希望の光でいっぱいになったと思います。

この夏まつりは、「障害に関係なくだれもが気軽に参加できるまつり」という想いから始まりました。そして、アボロッサムや青年学級の姿をみていると、少しずつですが、参加するだけでなく、ひとりひとりが自由に楽しさを表現し、発信する場へともりあがりつつあるように思いました。

今年も夏の楽しいひと時を、多くの方と一緒に共有できたことをうれしく思います。（峰政）

流しそうめん大会

紀ノ川岩出支援センター

7月11日、支援センター内で流しそうめん大会を行いました。当日は、小雨も降り心配していましたが、開催時は雨にあたることなく楽しむことができました。流しそうめん大会は、2年前にも開催し大盛況だった取り組みです。昨年も行う予定でしたが、台風の影響で中止になり、今年こそはとなかまも楽しみにしていました。

手作りの流しそうめん台を作るには準備段階からが大変です。

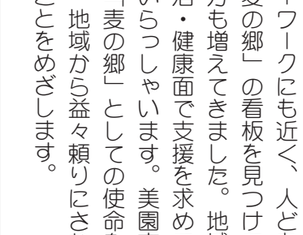
まずは、桃山町まで行き竹やぶの竹を切るところから始めます。今年は大雨の日が続いたので、雨が降っていない時間帯を選びながらの作業となりました。竹やぶの中は、前日の雨で足元が不安定でしたが、なかま3名スタッフ2名で協力し全部で5本の竹を切りました。細い竹ではそうめんが狭すぎて流れないので、ちょうど流すのに良い竹を選ぶのも一苦労でした。

そして、次の工程は竹を割り、節を取り除き、そしてやすりをかける作業です。節をきっちり取り除かないとそうめんが引っかかり流れないので、細かい作業を暑い中めげずにコツコツとみんなで手分けして削っていきました。足場も竹で組み、3本の竹を繋げて約6メートルの流しそうめん台を完成することができました。

当日は、ももたにクリニックデイケアの方たちも参加してくださり、合同で楽しいひと時を過ごしました。初めて体験するなかまもいて、「家で食べるそうめんと全然味が違う！」と喜んでいました。準備には時間がかかりましたが、あっという間にそうめんはなくなってしまいました（笑）。

来年は、もっと竹を繋げてながい流しそうめん台に挑戦したいなあ・・・。

その時はぜひ皆さんお越し下さいね！（松岡）



アート体験で心がゆたかに

麦ピース

麦ピース「かなで」では、アートサポートセンターRAKUと連携し、6月末より毎週木曜日の午前中にアートワークショップに取り組んでいます。最初に取り組んだのは「ステンシル」でした。型抜きをした型紙を布にあてて色を染める作業で初回はハンカチやコースターなどを創りました。

1回目は、緊張していた仲間たちもだんだん慣れてきて、自分たちで「型紙づくり」から挑戦した2回目にはとても楽しそうに作業をすすめることができました。同じ美園商店街「絵本ぐるぐる」スタッフ児玉さんもアドバイスや全員の作品への感想をお話してくださいました。きっと仲間の心に残ったことと思います。最終回では、各自が創った型紙でエコバッグを染めました。参加した7名それぞれが、その人らしさにあふれる素晴らしい作品を仕上げることができました。

アートワークショップのこれからの予定は「書道」「陶芸」「ダンボールアート」「自由画」「フラワーアレンジ」など。表現活動をとおして心がゆたかになり、ひとりひとりの好きなことや持っている力が掘りおこされることを願い、楽しみながら続けていきます。（鈴木悦子）

美園商店街に、麦の郷新拠点

「障害者就業・生活支援センターつれもて」「ホームヘルプ麦の郷」「麦の郷訪問看護ステーション」の3事業所が、美園商店街に移転し、麦の郷総合支援センターとして新しい拠点をつくりました。2階3階に各事業所の事務所があり、1階は共有スペースとして利用するほか、地域連携拠点として「アートサポートセンターRAKU」の取り組みにも活用されます。1階はギャラリーとしての機能もありますので、日ごろの表現活動の作品展示なども可能です。

美園商店街のアーケード東通りは、ハローワークにも近く、人どおりも多いため「麦の郷」の看板を見つけて訪れてくださる方も増えてきました。地域には、就業・生活・健康面で支援を求めている人は、大勢いらっしゃいます。美園商店街の新拠点で「麦の郷」としての使命をしっかり果たし、地域から益々頼りにされる存在になれることをめざします。（島）

助成ありがとうございました

はぐるま共同作業所 製パン部

日本財団様より三菱自動車　ミニキャブをいただきました。

車両がふえ配達ルートをたくさん確保できるようになりました。

ハートフルハウス　創

和遊協様よりミシン 2 台と卓上シーラー 1 台を助成いただきました。

卓上シーラーはコーヒー豆の販売のために、ミシンはコースターやシュシュ等を作って製品づくりに活用させていただいてます。

はぐるま共同作業所　和の杜

基盤整備の助成により男子トイレの小便器・大便器を 1 台ずつ増設できました。

以前は小便器 1 つ・大便器 1 つだけだったので休憩時間、作業開始前等は渋滞して大変でしたが、今はスムーズにまた快適になりました。

麦の郷印刷

基盤整備の助成により封入・封緘機と名刺カッター、点字プレスを新規で購入する事ができました。

今までは手作業でしていた事がスピードアップできたり、新しく取り組める仕事の幅がひろがりました。

ホームきずな / なでしこホーム

平成 23 年度障害者ケアホーム等設置促進事業の助成により 2 カ所のホームを新設する事ができ、男女 11 名が安心、安全な生活を送る事ができています。

それぞれの部署で仲間や職員が有効に活用しています。助成や寄付していただいた事でたくさんの課題が克服できました。本当にありがとうございました。

円応教紀ノ国協会からご寄付を頂きました

去る 6 月 22 日に円応教紀の国協会の方々から 63,850 円のご寄付をいただきました。

毎年円応教の皆様が和歌山市駅前で募金活動されて集めたお金を麦の郷にご寄付いただくようになって 1 0 年を越えています。

円応教紀の国協会の皆様、本当にありがとうございました。

むぎのひと

はぐるま共同作業所 ラ・テール
森　亜紀

はぐるま共同作業所　ラ・テールで働かせて頂き今年で 6 年目になります。

仲間やスタッフの皆さんの仕事に向ける真面目さや、人に対する優しさ、いざと言う時の底力、はたまた、子どもの様な遊び心いっぱいのラ・テールに感心させられたり、大笑いしたりと色々な事を教えてもらっています。こんな素敵な仲間達と仕事をする事が出来る事に感謝しながら毎日を過ごしています。

今、ラ・テールはお豆腐・お米を使った製品・ジュースなど、農産加工の仕事に力を入れています。元気いっぱいのラ・テールを発信源に、現在お世話になっている農家の皆さんや、これからの出会いを大切にし、みんなで円陣を組んで和歌山を元気にしていけたらと思っています。